

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200125		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら浦安富士見(1F)		
所在地	千葉県浦安市富士見5-15-11-1		
自己評価作成日	平成29年1月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

専門家による、日常生活動作(ADL)維持のための集団体操を継続して実施し、認知症ケアに精通した職員によるコミュニケーションを大切に自立支援を中心に取り組んでおります。ご利用者様が住み慣れた地域での安心と安全な生活を送っていただけるようなサポート体制の強化と、ご家族様や地域に向けた認知症の正しい理解を求める取り組みにも努めていきたいと考えております。又、職員間においては意見交換を活発に行い、同じ方向に向かう事で離職を防ぎ、一丸となって利用者様支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしく生活できる、楽しく明るいマイホーム」を事業計画書に掲げ、年度当初の全体会議で職員全員に周知しています。今年度は利用者の健康の維持、向上を図るために法人系列の他施設より運動機能訓練士の方が毎週来所し、集団体操や個別のマッサージを受け入れています。また、市内系列のグループホームと合同で市内の公民館において認知症カフェを開催し、ホームの専門性を地域に還元し、地域の方の安心感が高まるような取り組みも行っています。今後に向けては、ホーム周辺地域との交流の充実や近隣の幼稚園と連携し子ども達との交流などを進めていく事を検討しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時間に会社の企業理念等を読み上げ、意識の向上に努めている。また会議の中でもホーム長より口頭で伝える場面もある。	会社の企業理念、運営理念を朝礼時に唱和しています。またホームのスローガン「その人らしく生活できる、楽しく明るいマイホーム」を事業計画書に掲げ、年度当初の全体会議で職員全員に周知しています。	ホームのスローガンを掲げ年度当初の全体会議で周知していますが、職員の理解を深めていくための具体的な取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物支援や近隣の飲食店への外食支援等を通して地域との交流に努めている。又、自治会の夏祭り等への参加も行う、地域の一員でいられるよう支援している。	近隣の公園で実施された夏祭りへの参加やホームで実施した夏祭りや餅つきには近隣の方にも声をかけ交流が持てるよう取り組んでいます。また、市内の公民館において系列ホーム合同で毎月認知症カフェを開催しています。	今後に向けては、ホーム側からも積極的に働きかけ、利用者が地域の一員として交流できる機会が今年度よりも増加していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でホーム内で行った研修の内容(認知症も含)を発表し理解を得られるよう努力しているが、地域全体へ広める取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議における報告をしっかりと行い欠席者への議事録の発送も行っている。又、質疑応答を通してお客様や行政・近隣事業所の声を吸い上げ、サービス向上に取り組んでいる。	会議には市の介護保険課、民生委員、市内の小規模多機能事業所職員、家族の参加を受け2ヶ月に一度定期的実施しています。ホーム側から運営状況や行事報告のほか、参加者からも地域情報や家族の方から意見や要望を確認することができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、お客様やユニット職員の状況について情報共有を行っており、協力関係も築けてきている。	市の担当課との連携では、運営推進会議を通じて意見交換が図れる機会があるほか、運営上疑問点等が発生した際には担当課と連絡を取り指示を仰ぐことができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やユニット会議を通じて職員間では共通の理解をもって取り組んでいる。	施設内勉強会の中で「利用者の権利擁護」や「高齢者虐待防止」をテーマに上げ、身体拘束廃止についても触れ職員の共通理解が得られるよう取り組んでいます。現状ホーム内では身体拘束に繋がる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の意味を深く知るために全体会議後に職員が講師となった勉強会をし、皆で共有している。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に管理者が不明な点や不安に思う点・ご希望などを聞き、ご家族様に十分に納得して頂いた上で契約成立となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご面会時などに口頭にて、意見が寄せられている。又、運営推進会議にて意見交換の場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時や運営推進会議を通して意見を聞いたり、介護相談員の導入も行っている。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認するほか、運営推進会議や家族会を定期的に開催し意見や要望が表出できる場を設けています。また、介護相談員の方が毎月来初され、利用者からの意向や要望を確認しています。	家族参加型の行事が今年度少なかった反省点を活かし、次年度は家族参加型行事が今年度よりも増加することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の勤務時間内やユニット会議を通して意見・提案を聞き、話し合いの場を設けたり必要の際は個別面談も行っている。	ホーム長との個人面談を定期的に行い、職員からの意見や提案、能力向上に向けた希望等を確認しています。また、毎月ユニット会議を各ユニットで実施し職員の意見や提案を基に業務や支援の見直しを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別の面談を行い、スキル・モチベーションの向上を図っている。又、社員・準社員の登用試験にも挑戦出来る様援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットの状況を把握出来る様、職員個人との話の場を設けアドバイスを行って来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	きららの運営推進会議へ市内の方に参加して頂いたり、他の事業所の推進会議にも積極的に参加している。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人に会いに行き、その時の様子を見たり、話を聞くことで個人に合わせた支援の方向性を考案している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族との話し合いを密にし、意見交換・相談を行いながらご家族も安心して預けられるような信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を迎えるに当たり、ご家族からの情報等で収集した情報を事前に他スタッフと共有し合いあらゆる点から一人の利用者を見ていけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護に関する基礎的な知識やルールはぶれないようにしている。職員が居ることで利用者様が安心して暮らしていける信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・電話などご家族とご本人との関わりの時間を大切に考え、提供できるよう援助している。又、月初めに生活状況シートをご家族に郵送し現状報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所(買い物先や個別支援)へ外出している。又、ご友人の面会等があるときはゆっくりと過ごせる場所の提供を行っている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように、毎日利用者の主人が面会に訪れたり、家族と一緒に買い物に出かけることも可能にする等、これまでの関係性が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係把握をし、構築できるよう支援に努めているが、お一人が好きなご利用者様もいる為、その人に合わせた対応を行っている。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にサマリー作成やサービス終了後にフォローが必要と思われる利用者の家族には連絡を入れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い、要望等は、普段の業務内の中から言葉だけに頼らずアセスメントするよう注意している。コミュニケーションの難しいご入居者には、担当者会議等で話し合い、常にご本人様本位の支援を心掛けている。	利用者の思いや意向については日常会話の中で確認しています。またケアプランの作成、更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題、思い等を抽出しケアプランに反映し日々の支援に活かせるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に協力を頂き、情報の把握に努めている。業務内での会話で常に新しい情報得るよう気を配り、その上でスタッフで共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集にて心身状況を把握、入居後もご本人、ご家族と相談の基、ケアプランを作成している。できることに関しては可能な限り行える環境を整備して行ってもらっており、そのつど日課表を更新し統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リーダーをはじめ、各スタッフとの話し合いを密にし、ご家族への情報共有を取りながらケアマネを通して介護計画を作成している。	担当者会議において、職員、主治医、訪問看護師の意見を総合的に踏まえケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標に対する利用者の満足度や達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	今後に向けては主治医や看護師の意見を確認し他職種連携でケアプランを作成すると共に、モニタリングについてもより丁寧な実施を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤前の記録類の閲覧を徹底して行い、情報漏れのない状態でケアに当たれる様努めている。又、日々の気づきや疑問も日誌に記入するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望全てに実施できてはいないが、出来る限りニーズに合わせた柔軟な支援が出来る様努めている。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店や施設等を活用する事で顔なじみには慣れてきたが、その他の地域資源を把握しきれていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が月2回あり、それ以外にも常に電話連絡ができる体制を整えている。緊急時には、かかりつけ医に上申し指示を仰ぎ対応している。又、ご家族様対応の受診の際には、ご家族様への情報共有を密に行い、支援に反映している。	提携先医療機関による往診が月2回あるほか、訪問看護師も週に一度来所され、利用者の健康状態を確認しています。医療機関や訪問看護とは24時間連絡が取れる体制とし、緊急時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎水曜日の訪問看護の日に健康管理記録にて経過報告等行ない、的確なアドバイスを受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を取っている為、迅速な入退院の対応が出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。現段階では対象の利用者がいない。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急フローマニュアルを各ユニット・事務所に設置いつでも確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の他に避難マニュアル・防災チャートの確認を行っている。地域との協力体制はまだ得ていない。	火災を想定した避難訓練を9月と1月に実施しています。消防署立会いの下での消火、通報、避難訓練のほか夜間を想定した訓練を実施しています。ホーム内には災害に備え備蓄品の保管や地震や水害を想定したフローを事務所に掲示しています。	今後に向けては、地域の協力体制を確保すると共に、災害時において、利用者の安否をどのような手段で家族に報告するのか、より明確になる事を期待します。

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から丁寧な言葉かけに努めると共に、施設内研修やユニット会議を通しその大切さを共有している。	利用者への声かけや接し方等については日頃から職員に注意を呼び掛け、不適切な対応に繋がらないように取り組んでいます。居室への入室やトイレ誘導時の声かけについてもプライバシーに配慮して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日同じ場面であっても、選択肢を与え、言葉かけもお願いをするような声掛けを実施し、ご本人の意向を引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人主体とした生活リズムを組み日々の生活の中に本人らしい役割を取り入れられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人一人での整容が難しくなってきた為、季節に合わせた衣類や髭・整髪などの身だしなみも介助し一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、馴染みのメニューなどを取り入れ、毎日違ったメニュー作成に取り組んでいる。又、ご利用者様や職員皆で楽しみながら出来る料理も力を入れている。	食事作りも支援の一環として捉え、食材の買い物や食事作りなど利用者も主体的に関わり食事の準備を進めています。食事を楽しむ工夫では、利用者のリクエストを食事メニューに反映したり、個別で外食にお連れする等の取り組みにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記載を確実にし、日々の変化を観察している。また、個人の機能の応じて使用する食器や食事形態等を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	他事業所ではない共有スペースに洗面台が設置されているため、一人一人の口腔ケアの確認ができています。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の状況を正確にアセスメントし、ユニット会議を通して細かい支援計画を立て実践している。	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。トイレでの排泄を基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューの中で、乳製品、食物繊維の多い食材を取り入れるようにしている。また、毎日外出を設け運動するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ご利用者様への支援の差が出ないように固定の曜日による支援を行っているが、ご希望がある方は出来るだけ希望に添えるよう調整している。又、入浴剤や昔ながらの桶(ケロリン)等を使い楽しく、気持ち良く入浴して頂ける様環境を作っている。	入浴については体調を考慮し、週に2~3回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。また昔懐かしい桶の活用や富士山を掲示し、入浴が楽しめるような工夫も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考えながら、自由に休憩してもらっている。夜間ゆっくり休めるように日中活動し、日光を浴び体内時計を合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医・薬剤師と協力しながら、間違いなく服薬していただけるよう対応している。服薬変更があった際はそのつど連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、食器洗い、料理、掃除などご入居者が楽しく参加できるように支援している。又、希望があれば、飲酒・喫煙もスタッフの見守りにて対応している。趣味活動の再現にも力を入れて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員数の関係や、買い物日等の関係でその日の希望に添っての外出はなかなか出来ていない。ただ、他の日に出掛けられる事が出来るよう調整は行うよう努めている。	天候や気候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、また食材や嗜好品の買い物に近隣のスーパーやコンビニエンスストアまで出かけて戸外に出かけられるように支援しています。地域のお祭りに出かけたり個別で外食にお連れする等の取り組みも行っています。	



グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金として事務所で保管している。希望時にご家族の了承を得て、スタッフ付き添いにて買い物をする。希望あれば、ご家族の了承を得て、自己にて管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は電話等出来る様にしている。また御家族より電話が入りご本人が電話口でお話し出来る様見守りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の花や絵を飾っている。又、室温・湿度のこまめな調節を行っている。トイレには、わかりやすい様に目印の貼紙をしている。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際や外出・外気浴時にご入居者同士にて談笑されている。居室で過ごす時間も作れるよう声がけを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個人の居室に関しては、危険が伴わない限りご利用者様の好みを最優先にしている。又、やむを得ず環境を変えなければならない時にはアセスメントを行い、ご本人様、御家族様との情報共有を得て少しずつ変更していく配慮をしている。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるものは置かず、居室からトイレ、リビング、キッチンなどいけるように、見守りをしながら必要に応じては一緒に付き添い対応している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200158		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら浦安海楽(2F)		
所在地	千葉県浦安市海楽2-6-12		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個々のアセスメントを細かく取り、一人ひとりの性格、生活リズム、嗜好などを理解し、あらゆる場面において本人の意向を重視し、その人らしい支援に努めている。また、日々の介護記録やその他記録物から、日々の変化を読み取り、その時にあったケアができるような迅速な対応をしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「いつ来ても心地よい空間で」を今年度のホームスローガンに掲げ、職員全体で共有し一丸となり取り組んでいます。今年度5月に開設しましたが、利用者もホームの生活に慣れ、職員とも顔なじみの関係を築き、穏やかに生活を送る事ができています。職員も利用者のこれまでの生活歴などを確認しながら、これまでの習慣や利用者の得意な事がホームでも発揮できるように支援しています。また、地域との関係も徐々に築けていけるように近隣公園で開催された夏祭りに利用者と一緒に参加しています。今後も安定した職員配置に努め、職員のスキル向上を目指し、利用者への支援の充実に前向きに取り組む姿勢が確認できました。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時研修や開設時の研修にて、サービスの意義、理念について共有している。また、企業理念、運営理念を朝礼時に読み上げ、周知徹底を図っている。	会社の企業理念、運営理念を事務所に掲示し、毎週月曜日の朝礼時に唱和しています。また、事業所のスローガンを事業計画書に明記し、年度当初の全体会議において職員に周知しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、外出時には積極的に挨拶を行い、近隣の方に事業所の存在を知って頂けるような関係作りを図っている。	地域とのつきあいでは、地域行事である夏祭りや盆踊り、餅つき大会に利用者に参加し交流を深めています。近隣の住民やコンビニエンスストアの店員とも顔馴染みの関係が構築できており、地域とは良好な関係が築けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や行政の方等に運営推進会議の参加を呼びかけ、支援について行っている事や認知症について理解が深まるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所での取り組み状況を報告し、それに対して質疑応答を行うことで意見や要望を把握し、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議には市の介護保険課、民生委員、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、小規模多機能事業所、放課後等デイサービス事業所等の多くの参加を受け、2ヶ月に一度定期的に実施しています。会議を通じて地域情報の収集等につなげる事ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長を中心に市役所の方と日頃から入居希望者の相談について連絡を取っている。運営推進会議では、事業所の実情や会社の取り組みを積極的に伝え、関係性を築いている。	市の介護保険課の方とはホームの運営推進会議で定期的に情報交換を行うほか、運営上の疑問点等がある際には、連絡を入れ指示を仰ぎ、協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、施設内研修を通して、高齢者虐待防止について勉強会を行い、自身のケアを振り返り、ケアについて正しい理解をし、実践できるように取り組んでいる。	毎月の施設内勉強会の中で「高齢者虐待と権利擁護」を研修テーマに上げ、職員の意識を高めています。現状玄関の施錠を含め、身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、施設内研修を通して、高齢者虐待防止について勉強会を行い、自身のケアを振り返り、ケアについて正しい理解をし、実践できるように取り組んでいる。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、高齢者虐待防止の施設内研修を通して学ぶ機会を設けているが、日常生活自立支援事業や成年後見人制度については学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホーム長より説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催にて意見をもらえる機会はあるが、ほとんどは面会時や電話などを通してである。コミュニケーションを積極的に取り、機会を設けるように努めている。	家族からの意見や要望については面会時に必ず確認を取る様になっています。また、年に2回家族会を開催しており、定期的に家族が意見等を表出できる機会を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からリーダーに意見をもらえる機会があり、リーダーよりホーム長へ情報共有を図っている。	職員からの意見や提案については日頃からホーム長が職員に声をかけ確認する様にしています。利用者が気軽に買い物ができるように、職員の提案を反映し、移動販売車を活用につなげる等の取り組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長・リーダー両面から職員個々の取り組みを把握し、情報共有した上で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一緒に業務を行う中で、職員一人一人のケアへの取り組みや力量を把握し、助言等を行っている。また、本部での研修への参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での交流は、研修や親睦会等で行えているが、一部の職員である。社外の交流はほとんどない。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には家族の協力も得てセンター方式を利用しアセスメントを取り、関係作りに努めている。本人の言動から要望等を汲み取り介護記録に記入し、情報共有し、統一したケアが実践できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期には、面会時や電話などで状況報告を行っている。ケアプラン作成時には、不安や要望を伺い、プランに反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のプランを作成し、そこからの状態を把握し、情報収集を行っている。集めた情報と家族の要望を含め、必要としている支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体として日々の生活が送れるよう、職員が意図的にキッカケ作りを行い、職員と共に意欲的に活動に参加して頂けるような関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、本人と家族との良好な関係が続くように、面会時の空間作りを行っている。また、家族からケアに対してのアドバイスをいただくこともあり、共に支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームとして以前から大切にしてきた馴染みの場所へ外出する機会は作れていないが、家族との外出や友人との面会時、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、利用者の友人の来訪を受け入れたり、家族と一緒に外出や外食に出かける等、これまでの関係性が途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士が自然と関わり合えるような支援を行っている。場合によって、職員が介入するが、利用者自身で関係が築けるように心がけている。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム長を中心にサービス利用が終了した後も、事業所としてできるフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを通して、思いを汲み取るように心がけている。また、家族からの協力を得つつ、本人の意向を把握するように努めている。	利用者の思いや意向については日常会話から収集しています。また、ケアプランの作成、更新時にはアセスメントを行い利用者の現状や課題のほか以降についても確認し、日々の支援に反映できるように取り組んでいます。	ケアプラン更新時には24時間生活変化シートを使用し利用者の状態の変化等を確認していますが、今後に向けてはケアプラン更新時のアセスメントの際に利用者の日常生活動作状況も定期的に確認する事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本情報や、家族に協力をもらいセンター方式を利用し、生活歴などの記入をいただいている。また、本人とのコミュニケーションを通し、これまでの生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握するために、週間経過一覧表やD3シートを利用し、日々の生活が本人らしい自然なリズムとなるように図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前アンケートを活用し、月に1度の会議にて課題について、情報収集や意見交換をし、介護計画を作成している。	担当者会議の中で職員の意見を確認しケアプランを作成しています。ケアプランは6ヶ月毎に更新しています。ケアプランで掲げた支援目標に対する達成度や満足度は毎月のモニタリングで確認しています。	ケアプラン内に定めている目標期間の定め方や介護保険被保険者証の認定に有効期間を超えて目標期間を設定していないか等再度確認できると良いと思われます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は介護記録を記入し、状態の変化がある場合は詳細を記録し、スタッフ間で共有し、統一したケアに繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のADLや認知症状が変化した場合は、申し送りや会議等で発信し、スタッフ間で共有し、検討をしている。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オープニング研修にて、施設周辺の地域資源の情報を取り、把握に努めている。地域行事にも参加し、地域との関わりを持ちながら生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のもと月に2回の往診医による受診を行っている。また、馴染みのあるかかりつけ医に継続して受診されている方もいる。	提携先医療機関による往診が月2回あるほか、訪問看護師も週に一度来所され、利用者の健康状態を確認しています。医療機関や訪問看護とは24時間連絡が取れる体制とし、緊急時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護とは、健康管理連携記録にて情報共有している。体調に変化がある場合や気づきを細かく記入し、適切な処置や対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ホーム長を中心に。病院関係者との情報交換や、退院に向けての調整等を行っている。また、訪問医にも報告し、退院後の医療連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム長が中心となり、本人や家族と話し合いを図り、訪問医の意見も踏まえて、施設として出来ることを細かく説明し、今後の方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を通して、事故発生時の対応や緊急フローを把握するようにしている。AEDの取り扱い講習もあり、知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間を想定した避難訓練、消防訓練を実施している。	4月の開設前研修時に消防署立会いの下で消防訓練を実施しています。年間2回計画しており今年度3月中の訓練を予定しています。災害に備えホーム内に備蓄品の管理、災害時のフローについても作成し職員全体で共有しています。	本部で作成した災害時のフローを繰り返し職員間で共有すると共に、今後に向けては災害時の利用者の安否をどのような手段で家族に報告するのか、より明確になる事を期待します。

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせた言葉がけを行い、自尊心を傷つけないように配慮している。また、居室へ入室する際は、本人がいない場合には入室する旨を伝え、確認を取ってから入るようにしている。	今年度1月に実施した施設内勉強会で「高齢者虐待防止研修」を行い、利用者に対して不適切な対応がないかを全体で再確認しています。トイレへの声かけや利用者の居室への入出なども不適切がないように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一優先し、自己決定が出来るような環境や言葉がけを意識している。また、困難な場合でも、選択肢を設け、自ら選択できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞ける方には、ご自身のペースで過ごしてもらえるような言葉がけや環境作りを行っている。困難な場合には、本人の様子からこちら側で提案をし、自己決定が出来るような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、入浴、外出時などに本人に洋服を選んでもらえるよう支援している。また、ご自身で整容が出来る方には、事前に外出の旨を伝え、楽しみながら準備が出来るように声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、献立に取り入れている。誕生日にはご本人の希望を聞き、楽しみながら食事ができるように支援している。準備や片付けも一緒に行っている。	食事作りも支援の一環として捉え、買い物や食事作りにも利用者主体的に取り組んでいます。食事を楽しむ工夫では、入居当日には新規利用者の希望メニューの提供や出前や外食なども行い食事の楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立係を中心に、バランスのとれたメニューになるようにスタッフ間で確認している。食事量などは週間経過一覧表を用いて把握し、補食や補水を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で行える方に関しては、見守りや声掛けをして対応し、口腔内の確認を行っている。少しでも異変があれば、訪問歯科の無料検診を受け、必要時には治療を行い、助言をもとに介助し対応している。		



グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンは、週間経過一覧表を利用し、把握に努めている。こちら側から声かけし、誘導することでオムツを使用せずに過ごしている方もいる。また、本人のしぐさから早めのトイレ誘導を行うことで、オムツへの失禁を減らせるように対応している。	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体質に合わせて、乳製品を強化したり、腹部マッサージ等を取り入れている。また、家事活動も出来る範囲で立位で行うよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員体制の都合で時間帯が決まっていたが、事前に入浴の旨を伝え、納得し、楽しんでもらえるよう努めている。入浴を好まない方に対しては、アプローチの仕方を検討している。	入浴については体調を考慮し、週に2~3回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援すると共に利用者とのコミュニケーションを大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して就寝できるような言葉掛けや環境を整えている。また、状況に応じて午後の午睡の時間を設け、休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりのお薬説明書をファイリングし、最新のものを確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、スタッフ間で共有し、その後の状態を薬剤師や主治医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なことや好きなことを系活歴や日々の生活の中で見つけ、役割として取り入れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員不足のため、日常的に外出する機会が少なかったが、本人の希望があった際には、散歩に出掛けられるように努めている。	天候や気候の良い季節にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、食材の買い物には利用者も同行するなど戸外に出かけられるように支援しています。また、毎月市内の系列事業所間で実施している認知症カフェにも利用者をお連れしています。	

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、基本的に事務所で管理しているが、利用者によっては、財布を所持している方もおり、見守りのもと本人管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニット内に電話があり、希望があれば家族に電話をかけている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に合わせて、時期に合った装飾を利用者と一緒に作成し、飾っている。季節感を感じられるよう工夫し、利用者との会話のきっかけにもなっている。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に応じて、食事席を配置している。また、その時その時の本人の気持ちや状態にも気を配り、居場所の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるように、家族に協力を得ている。また、こちらからも提案をしながら、居心地の良い空間作りを意識している。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー化しているが、生活を送る中で、不備があった場合には、すぐに報告し、安全に過ごせるよう対応している。		